

高校同期生3人 北ア・乗鞍岳(3026.3m・日本百名山)に挑む

2024年9月17日 午後4時半
長野県松本市の JR 松本駅前で高校同期生3人(男性)が集まった。乗鞍岳に登るためである。今年度83歳になる3人だ。

いずれも高校地学部で、山登りを共にした長年の山仲間だ。

松本名物・そばを食す

まず、松本名物の“そば”を食べようと、観光案内所でもらった「蕎麦マップ」をたよりに、まず「手打ちそば・こぼやし本店」を訪ねるが「本日はもう閉店です」の答え。次に「そばきり・みよ田」に行くと、店の前は外国人をも含む客が列をなしている。

狭い路地に置かれたベンチで待つことしきり。やっと“そば”にありついたが、期待していた「素朴な」感じはなかった。

話題は仲間たちの動向

そばをすすりながら、一人が「とうとう3人になったか」と言い、話題は同窓生たちの動向に。

永く続いた私たちの高校同期生登山、地学部OBたちはその中心を担ってきたのだ。その地学部OBたちも寄る年波には勝てず、自らの、あるいは家族の、健康その他の事情で山に登れなくなっている。中には鬼籍に入った人もいて、改めてしみりしてしまう。

今回の目的地・乗鞍岳にも20年ほど前の同窓生登山で男女20人近くが登頂している。果たして、明日は登頂できるのか、「まあ、無理をせず、行ける所まで行こう」で合意。



↑乗鞍山塊の盟主・剣ヶ峰(3026.3m・バックの尖峰)への道

電車、バスを乗り継いで畳平へ

翌18日 6時半にホテルの朝食を済ませ、7時15分発の新島々行き松本電鉄電車に乗車、終点で乗鞍高原行バスに乗り換え、さらに乗鞍高原バスセンターから乗鞍山頂行きシャトルバスで10時20分畳平バスターミナルに到着。標高2702m。ターミナルの建物、土産物店、ホテルなどが立ち並んで、多くの人が行きかっているが、さすがに涼しい。

いざ、乗鞍岳・剣ヶ峰へ

トイレを済ませ、準備を整えて10時40分登山開始。石、岩がゴロゴロした歩きにくい道だが、イワギキョウが花を見せており、ウメバチソウも残っている。トウヤクリンドウはつぼみのまま。ハイマツ林の上でホシガラスが啼き、飛び交っている。



↑イワギキョウ(岩桔梗・キキョウ科イワブクロ属)

乗鞍・肩ノ小屋に

まもなく、砂利道の林道を歩くようになり、元コロナ観測所(太陽のコロナ=コロナウイルスの語源=を観測していた)を右に見て、緩やかな峠を越えると、眼前に乗鞍剣ヶ峰

↓トウヤクリンドウ(当薬竜胆・リンドウ科)

(3026.3m)がそびえている。その雄姿を見ながらユルユルと下って、肩ノ小屋に11時40分着。広い林道はここまで。小屋には売店もあり、食堂も開いているので、多くの登山者が憩っている。



↑ウメバチソウ



山頂めざす人々を眺めながら撤退の相談

私たちも、小屋・南側広場のテーブルに座り、「昭和16年組はここまでにするか」「そうやなあ」などと言いながらランチタイムとする。

小屋近くから始まる剣ヶ峰への急登、目の前の急斜面を斜めに横切って上っていく登山道、そこをゆっくりした足取りで幾組かのパーティーが進んでいく。それらを眺めながら「撤退」の相談をするのはいかにも残念だが、この結論が結果として幸いした。

天候急変、遠雷も

12時25分下山開始。畳平への帰路は、砂利道の林道だが、なんと



いっても海拔2800m前後の尾根筋の道なので、涼しい。やがて雨が降り出した。13時30分バスターミナルに着いてしばらくするとガスがかかり、雷も鳴り出した。やがて豪雨となった。バス停広場に設置されている温度計の数値は12度から11度まで下がり、改めて雨具をつけることとなった。山の天気は変わりやすく、低温の日

に体を濡らすのは高齢者にとって危険でもある、我々が出した結論は「英断」だったと言える。



19日午前中、美ヶ原を散策

←ヤマハハコ

浅間温泉の湯に身体を沈めて、ゆっくりとほぐし、翌朝、車で美ヶ原に上った。さすが2000mの高原、涼しく、小雨けぶる中で牛の群れが草を食べていた。美しの塔までゆったりと歩いたが、花は少なかった。「もう来ることはあるまい」と思うと、立ち去りがたい気分

↓ノコンギク?



続けたい同窓生登山

この3日間、少々高かった“避暑の旅”だったが、旧友たちと過ごした時間は貴重だった。高校卒業後それぞれが辿った人生も、現在の境遇も、まったく違う3人だが、呼び捨てで語り合い、遠慮も付度(そんたく)もなく話し合えるのは、共通の基盤が、利害とは無縁の高校生活だったからだろう。

そして高校時代と人生後半とで、登山という趣味を共有したことも小さくなかった。登山は苦楽を共にするスポーツで、山行を共にする中で培われる相互信頼は半端ないものがある。

すでに、平均寿命を超えた私たちが、この山登り、米寿までは続けることにしよう。



↑ハクサンフウロ

続・続・二上山に咲く花々 47

ゲッケイジュ(月桂樹)

クスノキ科 ゲッケイジュ属

二上山雄岳山頂には、葛木座二上神社があり、高いブロック塀に囲まれたその社殿の中に、ゲッケイジュが植えられています。

近年まで、そばの雑木林の中にも生えていて、煮込み料理の香り付けにと少量の葉を持ち帰る人もいました。

地中海沿岸地方原産のこの植物が日本に入ってきたのは明治期とされ、その際中国語の訳語「月桂樹」を音読みにして和名としたようです。

常緑広葉の中高木。花期は4～5月。

芳香のある枝葉で編んだ月桂冠はスポーツ勝者や優れた詩人に冠せられ、桂冠詩人の言葉もここから生まれています。

